

一、我儕ノ義トセラル、理由ハキリストガ律法ヲ守リタルヲ含ム、第一ノアダムハ神ノ契約ノ誡命ヲ守リ得ズ遂ニ其子孫ヲ率テ罪惡ノ中ニ陷ラシメタリ、第二ノアダムキリストハ自ラ其契約ノ義務ヲ一身ニ任ヒ全ク之ヲ守リテ凡テ已ヲ信ズル者ヲシテ生シメタルコトハ明白ナリ、何トナレバ(一)凡テ救ノ約束ハ從順ニ基ケリ、加拉三ノ十一、十二ニ曰義人ハ信仰ニ由テ生クベシトアレバ律法ニ由テ神ノ前ニ義トセラル、者ナキコトハ明ナリ、夫レ律法ハ信仰ニ由ラズ即チ云フ之ヲ行フ者ハ之ニ由テ生クベシ(馬太十九ノ十六、十七ヲ見ヨ)(二)キリストハ律法ヲ成就セシ爲ニ來レリ、馬太五ノ十七ニ曰我律法ト預言者ヲ廢ル爲ニ來レリト思フ勿レ、我來テ之ヲ廢ルニ非ズ成就セン爲ナリ(羅馬三ノ三十一、前哥林一ノ三十、以賽四十二ノ二十一ヲ見ヨ)(三)キリストノ順トアダムノ逆トヲ明白ニ反對セリ、羅馬五ノ十九ニ曰夫

レ一人ノ逆ニ由テ多ク罪人トセラレシ如ク一人ノ順ニ由テ多ク義トセラルベシ

二、義トセラル、事ノ原由中ニハキリストガ犯罪者ノ受ベキ所ノ罰ヲ受タルコトヲ含有ス、之ガ聖經上ノ證據ハ既ニ第十三章四、五、六節ニ舉述シタリ、即チキリストノ苦難ト死ハ我儕ニ代テ受タル者ニシテキリストヲ「贖」ト稱シ「咀」ト稱シ或ハ罪人ノ爲ニ死セリト云ヒ或ハ我儕ノ罪ノ爲ニ苦ヲ受ケ我儕ノ罪ヲ負フタリトアルニ由テ之ヲ知ルベシ

三、此キリストノ義ノ外ニ罪人ノ義トセラル、原由ナキ事ハ左ノ事項ニ由テ明白也(一)聖經ニ於テ凡テ其他ノ原由ヲ排斥セリ、若シ其他ニ原由アリトセバ罪人自ラノ義ヲザルベカラズ、即チ己自ラ律法ヲ完全ニ守ル乎將更生ニ由テ彼ニ賦與セラレタル義カ或ハ神ノ恩惠ニ由リ己ノ權理トシテ受ル所ノ義タラ

ザルニカラス、然レモ凡テ此等ノ場合ニ於テハ其義トセラル、
 原由ハキリストノ爲シタル所ニ非ズシテ罪人自ラ爲シタル所
 ノ者也、然レモ聖經ニハ我儕ノ義トセラル、ハ律法ノ行ニ由ラ
 ザル事ヲ明示セリ(羅馬三ノ二十八)又神ハ不義ナル者ヲ義トス
 ルト云ヒ(羅馬四ノ五)又行ニ由テ義トセラル、トト恩ニ由テ義
 トセラル、トトヲ相反對シテ決シテ行ニ由テ義トセラル、ト
 ナシト斷言セリ(羅馬十一ノ六、加拉五ノ四、以弗二ノ八、九ヲ見ヨ)
 (二)キリストノ義ノ外ニ罪人ノ義トセラルベキ原由ナキトハ此
 義ト云フコニ適用シタル名稱ニ由テモ又明カナリ、即チ之ヲ神
 ノ義ト云ヒ(羅馬三ノ二十二)行ナク義トセラル、トト云ヒ(同四
 ノ六)義ノ賜ト云ヒ(同五ノ十七)一ノ義、一人ノ順ト云ヒ(同五ノ十
 八、十九)我儕ノ神ト救主イエスキリストノ義ト云ヒ(後彼得一ノ
 一)又キリストヲ指シテ義キ枝、我儕ノ義ナル主ト云ヒ(耶利二千

三ノ五、六)凡テ律法ヲ守ル者ノ義トセラレシ爲リ律法其終ト稱
 シタリ(羅馬七ノ四)其義トセラル、トト云フコハ諸ノ儀式ヲ
 第五義トセラル、事ノ原由ニ探スル諸説ニ由レバ使徒パウロガ屢々言フ極メテ
 一立ベレシアン派ノ説ニ由レバ使徒パウロガ屢々言フ極メテ
 辨駁シタル所ノ行ニ由テ義トセラル、ト云フコハ諸ノ儀式ヲ
 守テ義トセラル、意ニシテ人ハ道德ノ律法ニ合フテ義トセラ
 ルベキ者ナリトス、但此道德ノ律法ニ合フ事ハ信仰ニ由テ來ル
 者ナリトス、
 二 或近代ノ合理派中ニモ此説ヲ取ル者アレモ信仰ト云フ詞
 ニ一種特別ノ意味ヲ附セリ、其説ニ曰信仰トハ大凡道德的及ヒ
 宗教的ノ真理ヲ確知スルヲ義ナリ、而シテ人若シ此律法ニ從テ
 行ハント務ル時ハ則チ義トセラル、トガリトス、
 此ノ如ク彼等ノ教理ハ人ノ義トセラル、ハ其行ニ由ルトナス

三、羅馬教會ニ於テハ義トセラル、事ハ人ガ始メ更生スル時ニ注入セラレ、所ノ義ニ由ルト説ケリ、彼等ハ凡テ更生前行フバ義トセラレ、事ハ原由ニ關係ナキ者トス、然レバ此教トベレジアン派ノ説トノ差別ハ只其善行ノ由テ來ル所ノ本原ニアリ、即チペレジアン派ノ人ハ大凡道德的及ヒ宗教的ノ真理ヲ確信スル事ヲ以テ其本原トシ羅馬教徒ハ更生ヲ以テ其本原トナス也

四、昔日ノアルミニアン派ノ説ニ由レバ神ハ既ニ新シキ契約ヲ立タルガ故ニ我儕ニ向テハ其會テアダムニ向テ要求シタル所ノ完全ノ從順ヲ要求セズ、唯福音ノ從順ヲ要求スト云フ、所謂福音ノ從順トハ信仰ト其結果ヲ含ム者ナリトス、彼等ノ説ニ曰神ハ信仰ノ從順ヲ要求ス、然レバ其從順ハ會テ律法ヲ要求セ

如キ嚴密ナル者ニ非ズ、但誰モ信仰ニ由テ爲シ得ル所ノ從順ナリ、然リ而シテ義トセラル、トトハ唯神ガ我儕ガキリストヲ信ズルノ故ヲ以テ完全ナル義ノ代ニ不完全ナル義ヲ嘉納スルノ意義ナリト、之ニ由レバ義トセラル、事ノ原由ハ罪人ノ道德心術ニ在テキリストノ行爲ハ信者ノ不完全ナル義ヲシテ律法ヲ要求スル所ノ完全ナル義ノ代ニ受納レラル、トヲ得セシメタルニアレ耳

五、ウエスレーリトソン等ノ如キ近世ノアルミニアン派ク説モ昔日ノアルミニアン派ト大同小異ニシテ唯彼等ハ信仰ヲ以テ義トセラル、トノ單一ノ原因トナスノ差アル耳、ウエスレーリ氏曰(同氏著述集第一卷五十六丁ヲ見ヨ)行ノ契約ハ律法ノ細節ニ至ル迄完全ノ從順ヲ要求シタレバ恩惠ノ契約ハ唯信仰ヲ要求スル耳云々、ワトソン氏曰(同氏著述集第二卷二百三十六丁ヲ

見ヨ)聖經ノ明白ナル教ハ人ハ何等ノ行ニ由テモ義トセラル、
 ナク未ダ曾テ此事ナシ、將來モ此事アルベカラザルナリ、唯信
 仰ニ由リ義ヲ歸セラル、ニ由テ義トセラルト云フナリ云々、
 此ニ氏共ニキリストリ從順苦難ノ人ニ歸セラル、コヲ拒ミ且
 二人リ行ヒタルコハ決シテ他人ニ歸スルコ能ハズト主張スル
 者ナリ、此ニ由レバ義トセラル、コハ原由ハキリストガ罪人ニ
 代テ爲シタル事ニアラズシテ罪人自ラ爲ス事ニアリトス、蓋ア
 元ミニアシ派ノ説ニ由レバ神ノ恩惠ハ凡ノ人ニ與ヘラレ而シ
 テ人自ラ此恩ヲ使用スレバ漸ク進歩シテ遂ニ信仰ヲ起スニ至
 ル也、
 凡テ此等ノ説ニ於テ二ノ一致スル所アリ(一)彼等ハ皆罪人ノ義
 トセラル、コハキリストノ中保ノ行ニ關係アルコヲ許容シキ
 行ニ非ズ、義其直接單一ノ原由トシテコヲ拒絕ス、又キリストノ

義ハ即チ其律法ニ從ヒ律法ノ下ニ服シテ苦難ヲ受タルニアル
 事ト其義ノ罪人ニ歸セラレ得ベキコヲ拒絕スル者ナリ(二)彼等
 ハ皆義トセラル、コヨリ或行爲ヲ除クト雖亦皆何カ人ノ心又
 ハ人ニ由テ爲サレタル行ヲ以テ其原由トナス、然レモ彼等ノ中
 誰モ其原由ヲ以テキリストガ我儕ノ爲ニ行ヒタル所ノ原由ノ
 如ク單一ノ者トナス者ナシ、
 六 我儕ガ聖經ノ教ト思惟スル所ハキリストノ義ハ即チ我儕
 ガ義トセラル、事ノ直接單一ノ原由ニシテ凡テ人間ノ行爲ハ
 其我儕ノ内ニアルト我儕ニ由ルトヲ論ゼズ悉ク其原由ニ與カ
 ラザル也、此事ハハイデルベルグ問答第六十及六十一ノ問答ニ
 最モ明白ニ解説セリ、問テ曰汝ハ如何ニシテ神ノ前ニ義トセラ
 ル、答テ曰只イエスキリストヲ眞ニ信仰スルニ由テ耳、我ガ
 良心ハ我ガ神ノ凡ノ誠ニ戻テ甚シク罪ヲ犯セシコト又之ヲ一

ダニモ守ラザリシト今モ猶兎角諸悪ヲ爲スヲ咎ルト雖
 神ハ偏ニ惠ヲ以テ功ナキ我ニ恰モ我ガ斷テ罪ヲ犯サズ或ハ罪
 ナキ者ナリシ如ク又キリストノ我ニ代リテ全ク成就シ給ヒシ
 凡テ從順ヲ我ガ自ラ成就セシ如クニナシテキリストノ全キ贖
 罪正シト聖キトヲ授ケ與ヘテ我ガモリトナシ給フ、我ハ信ズル
 心ヲ以テ此益ヲ受ル也、問テ曰何故汝ハ只信仰ニ由テノ義ト
 セラカ、ト云フヤ、答テ曰我ガ神ノ聖旨ニ合フハ信仰ノ功ニ由
 テニ非ズ、只神キリストノ贖ト聖トヲ我ガ義ト爲シ給フニ
 由ル也、又我之ヲ受テ我モノトスルハ信仰ニ由ル耳、他ノ道アル
 コトナシ、
 第六キリストノ義ノ信徒ニ歸セラル、事ニ對スルニ
 キリストノ義ガ如何ニシテ我儕ノ有トナルヤトノ問ニ對スル
 答ハ自ラ分レテ二段トナル(第二章)神キリストノ信者ヲ義トセシ

爲キリストノ義ヲ以テ之ニ歸ス(第二章)信者ハ信仰ニ由テキリ
 ストノ義ヲ受ク、
 歸スルト云フトモキリストノ性徳ガ我儕ノ有トナリテ我儕ノ
 品性一變スト云フヲ意ニ非ズ、又神ハキリストガ爲シタル所
 事ヲ我儕ガ實ニ爲シタリト思惟スト云フニモ非ズ、キリストノ
 從順苦難ハ己ヲ爲ニ非ズ、我儕ノ爲ナリ、故ニキリストノ義ガ我
 儕ニ歸セラルトハ其從順苦難ノ功ヲ我儕ノモノトナルト云フ
 義ニシテ我儕ハキリストノ爲シタル事ヲ爲サズト雖神ノ律法
 ニ對シテハ宛ガラ之ヲ爲シタル如ク見做サル也、
 歸スル云フ字ノ意義ハ第十三章六節並人性論十六章ニ詳説シ
 タリ、
 我儕ガキリストノ義ガ直接ニ信者ニ歸セラルト云フハ即チキ
 リストノ義ハ信者ノ義トセラル、間接ノ原由ニシテ直接ノ義

ハ信者自ラノ義ナリト唱フル者ニ反對シテ之ヲ云フ也
 我儕キリストノ義ガ直接ニ信者ニ歸セラル、コヲ證スルコト左
 ノ如シ

一、義トスルト云フ詞ニ由テ之ヲ證ス、若シ義トスルトハ人ヲ
 義者ナリト宣言スルノ意ナリトセバ眞ニ彼ニ歸スベキ所ノ義
 ナカルベカラズ、然レモ罪人ハ自ラ此ノ如キ義アルコトヲ、然ラ
 バ則チ他者ノ義ヲ歸與セラル、ニ非レバ我儕ニ於テ此義アレ
 ベカラズ、神ハ即チ此ノ如クシテ罪人ニ義ヲ歸シ給フナリ(羅馬
 四ノ六ト二十四)

二、キリストノ代理者タル資格ト其行爲ノ代理的ノ性質ニ由
 テ之ヲ證スベシ(羅馬五章ヲ見ヨ)罪人ノ罪ニ定メラレタル原由
 ハ即チ其代理者タルアダムノ犯罪ニシテ信者ノ義トセラル、
 原由ハ其代理者タルキリストノ義ナリ、アダムノ罪ノ其子孫ニ

歸セラル、コトノ直接ナルガ如クキリストノ義ノ信者ニ歸セラ
 ル、コトモ亦然リ

三、人ノ義ト神ノ義トヲ比較反對セシメタル所ノ本文ニ由テ
 證スベシ、例ヘバ羅馬十ノ三、四、腓立三ノ八、九ノ如シ

信仰ト義トセラル、事ノ關係

夫レ義トセラル、事ハ神ノ行爲ニシテ其原由ハキリストノ義
 ナリ、而テ其義我儕ニ歸セラレテ我儕ノ有トナルナリ、然レモ此
 義ハ凡ノ人ニ歸セラル、ニ非ズ、唯信ズル者ニ歸セラル、耳、我
 儕ハ即チ信仰ニ由テ義トセラル、也、此事ニ就テモ義トセラル
 、コトノ原由ト略同様ノ異説アリ、蓋義トセラル、コトノ原由ノ説
 如何ニ由テ信仰ト義トセラル、コトノ關係ノ説モ又異同アル也

(一) ペレシアン 派並或近世ノ合理派ノ人ノ説ニ由レバ信仰ヲ
 以テ道德ノ美ノ本源トス

(三) 羅馬教會ニ於テハ信仰ヲ以テ義トセラル、コトハ毫モ直
 接ノ關係ナキモノトシ、只信仰ハ人ヲレテ「バプテスマ」ニ傾向セ
 シメ而シテバプテスマニ由テ更生スト説ケリ
 三 アルミニアン派ノ説ニ由レバ信仰又ハ信仰ト其結果ヲ合
 セテ義トセラル、コトノ原由トス
 四 聖經ニ由レバ神人ノ靈魂ニ於テ信仰ヲ起シ而シテ人其信
 仰ヲ活動^{ハヤカガ}レテキリストヲ受ケ且キリストヲ以テ無二ノ救主ト
 ナス、故ニ信仰ハ只我儕ガ義ヲ受ル方法ニ過ズ、是レ明白ナリ、何
 トナレバ(一)聖經ニ我儕ハ信仰ニ由テ義トセラルトアレバ信仰
 ノ故ヲ以テ義トセラルトハ云ハズ、若シ然ラバ原文ニ於テ他ノ
 語ヲ用フベキ筈ナリ(二)信仰ヲ指シテ見ルト云ヒ來ルト云ヒ受
 ルト云ヒ執レト云ヘリ、誰ヲ見ルナルヤ、誰ニ來ルナルヤ、誰ヲ受
 ルナルヤ、誰ヲ執ルヤ、已ヲ執ルニ非ズ、キリストヲ執ルナリ、然ラ

バ則チ信仰ハ只我儕ガ神ノ義ヲ受ルノ方法ニシテ之ガ原由ト
 ルベカラザルコト明白ナリ(三)信仰ノ目的ハキリストト其義タル
 コトヲ明示セリ(四)信仰ノ要ハ信任ニアリ、是レ自己外ノ者ヲ信任
 スルノ意タルコト論ヲ俟ズ(五)又他説ハ義トセラル、コトノ性質及
 ビキリストノ尊榮ニ合ハズ
 反對説
 一 或ハ曰羅馬四ノ三並加拉三ノ六ニアブラハム神ヲ信シ其
 信仰義トセラレタリトアルニ非ズヤ、是レ即チ神其恩惠ニ由リ
 アブラハムノ信仰ヲ以テ彼ガ律法ヲ守リタル代リト爲タルナ
 リ、然ラバ則チ信仰ハ義トセラル、コトノ原由タラザルベカラズ
 ト、答テ曰信仰ト云フ語ハ信仰ノ目的即チ人ガ信仰スル所ノ事
 物ヲ指シテ用ヒタル例少カラズ、是レ即チ其一例ナリ、使徒パウ
 ロノ主意ハアブラハムハ如何ニシテ義トセラレタルカト云フ

コヲ示スニアリ、而シテ其義トセラレタルハ行ニ由ズシテ信仰
ニ由レリ、即チ彼自ラ爲セル所ノ事ニ非ズシテ神ガ彼ト彼ノ裔
ニ約束シタル所ノ事ニ由レリト云ヘリ、アブラハムハ神ヲ信シ
タリ、而シテ其信仰ハ彼ヲシテ神ガ約束シタル所ノ者ヲ受ケシ
ムル方法トナレリ、是故ニパウロハ加拉三ノ十四ニ我儕モ信仰
ニ由テ同約束ヲ受クト云ヘリ、又他ノ所ニハ信仰ハ神ノ賜ナリ
ト云ヘリ(以弗二ノ八)信仰ハ神ノ賜タリト雖亦人ノ爲ス所ノ事
タリ、而シテ我ガ義トセラル、原由ハ我儕ノ爲ス所ノ事ニ非ズ
トパウロハ明示セリ、加之ナラズ信仰ヲ以テ義トセラル、コノ
原由ト爲スハ聖經ノ他ノ教トモ和合セズ、何トナレバ律法ハ永
選變更スベカラズ必ズ成就スベキ者ニシテキリストハ之ヲ成
就センガ爲ニ來レリトアレバ也、アブラハム信仰ニ由テ義トセ
ラレタルガ如ク我儕モ信仰ニ由テ義トセラル即チ信仰ヲ我儕

ノ行トシテ義トセラル、ニ非ズ、唯我儕ヲシテキリストノ義ヲ
受シオン爲ニ神ガ設ケ給ヘル方法トシテ義トセラル、耳
二、或ハ曰使徒ヤコブハアブラハムハ行ニ由テ義トセラレタ
リト教ヘ、而シテパウロノ教ニ反對セリト(雅各二ノ十四ヨリ二
十六)答テ曰パウロトヤコブハ相反對スル者ニ非ズ、蓋パウロハ
義トセラル、コノ原由ハキリストノ義ニアリトシ、而シテ信仰
ヲ以テ我儕ガ之ヲ受ル所ノ方法トナセリ、ヤコブハ信仰ノ結果
タル善行ハ義トセラル、者ニ於テ必要ナル徴證ニシテ此信仰
ノ結果ナキ者ハ即チ信仰ナキ者ナリ、信仰ナケレバ義トセラル
ハ、コナシトセリ、パウロモ加拉五ノ六ニ於テ眞ノ信仰ハ必ズ愛
ヲ以テ勵ク者ナリト云ヘリ(羅馬十三ノ十ヲ見ヨ)
(三) 又曰聖經ノ教ナリト云フ所ノ義トセラル、コノハ理ニ於テ
有ルベカラザル事ナリ、何トナレバ罪人ガ罪ヲ犯シ、而シテ其罰

シテ死スベキコトハ永遠變更スベカラザル事實ニシテ其罪ヲ他人ニ移シテ其耻辱ト罰トヲ全ク除去ルコトハ決シテ爲得ベカラザルコトナレバナリト、我儕答テ曰罪ノ耻辱ト罰トハ神ノ前ニ於テモ聖徒ノ前ニ於テモ決シテ減少スルコト能ハズ、反テ救ハレタル者ハ神ノ無限ノ聖善ヲ知ルニ隨テ己ノ罪惡ノ増ス惡ムベキコトヲ知ラン、然レモ是レ只彼等ヲシテ神ノ慈愛ノ榮光ヲ愈感銘セシメン耳、罪人ノ義トセラシムル、ハ彼が行ハザル所ノ事ヲ行ヒタリト宣言セラシムル、ニ非ズ、又彼が實ニアラザル所ノ者ナリト宣言セラシムル、ニモ非ズ、只キリストが彼が爲ニ行ヒタル所ノ事ニ由テ其罪赦サレタリト宣言セラシムル、耳、信者ハキリストノ義ヲ以テ掩ハルト云ヒ或ハ之ヲ被ルト云フハ即チ此意ナリ、ダビデモ詩篇三十二ノ一二ニ斯ク云ヘリ、曰其愆ヲ赦サレ其罪ヲ掩ハレシ者ハ福ナリト(詩篇八十五ノ二ヲ見ヨ)

四 又曰此教ハ人トシテ己ノ徳義ヲ輕ンジ義務ヲ怠ラシムト、是レ即チパウロガ羅馬六ノ一ヨリ十一ニ辨駁シタル所ノ論ナリ、曰然ラバ我儕何ヲ言ハンヤ、恩ノ増サン爲ニ罪ニ居ルベキ乎、非ズ、我儕罪ニ於テ死シ者ナルニ何デ尙其中ニ於テ生ンヤ、イエスキリストニ合ハントテバプロテスマヲ受シ者ハ即チ其死ニ合フハントテ之ヲ受シナルヲ汝等知ラザルカ、故ニ我儕其死ニ合フバプロテスマニ由テ彼ト共ニ葬ラル、ハキリスト父ノ榮ニ由テ死ヨリ甦ラサレシ如ク我儕モ新シキ生命ニ行ムベキ爲ナリ、若シ我儕彼ノ死ノ狀ニ等シカラバ亦彼ノ復生ニモ等シカルベシ、我儕ノ舊人彼ト共ニ十字架ニ釘ラル、ハ罪ノ身廢テ今ヨリ罪ニ役ヘザルガ爲ナルヲ我儕ハ知ル、ソハ死シ者ハ罪ヨリ釋サルレバ也、我儕若シキリストト共ニ死バ又彼ト共ニ生ンコトヲ信ズ、キリスト死ヨリ甦リテ亦死ズ、死モ亦彼ニ主トナラザルヲ知レ

リ、是レ其死ハ罪ニ就テ一次死、其生シハ神ニ就テ生シナリ、斯ク
 汝等モ我儕ノ主イエスキリストニ由リ罪ニ就テハ自ラ死ル者、
 又神ニ就テハ生ル者ナリト意フベシト、人義トセラル、時ハ必
 ズ信仰アリ、然レモ信仰ハ其人ノ新ラシキ生命ノ活動ニシテ之
 ニ由テ始メテ聖潔ヲ愛シ罪惡ヲ惡ムナリ、故ニ義トセラル、
 ノ方法タル信仰ハ心ヲ潔メ(行傳十五ノ九)愛ニ由テ働キ(加拉五
 ノ六)世ニ勝ツナリ(第一約翰五ノ四)然ラバ則チ此教理ニシテ何
 デ人ノ義務ヲ怠ラシムルノ傾向アラシヤ、之ニ反シテ信者ハ義
 トセラレテ神ト和グコヲ得(羅馬五ノ一)神ノ子トナリ(加拉三ノ
 二十六)神ノ靈ヲ受ケ神ヲ仰テ父ト稱シ(加拉四ノ四、五)神ノ孝子
 トシテ凡テノ行ヲ潔クセンコヲ務ムルナリ(前彼得一ノ十四、十
 五)

第二十四章 子ト爲ル事

義トセラル、事トハ信徒カ神ノ律法ニ對スル新ナル關係ヲ顯
 シ、子トナル事ハ信徒カ神自ラニ對スル關係ヲ顯スナリ、子トナ
 ル事ハ即チ神カ新ニ生レ且義トセラレタル罪人ヲ受納シテ己
 ノ子輩ト認メ且之ニ凡テ子タルノ權理特權ヲ附與スル所ノ恩
 惠ノ行爲ナリ

第一此子ト爲ス事ノ原ハ即チ父ナル神ナリ、第一約翰三ノ一ニ
 曰ク、汝等見ヨ、我儕稱ラレテ神ノ子タルコヲ得、是父ノ我儕ニ賜
 フ何等ノ愛ゾ

第二其理由ハ即チイエスキリストノ功德ナリ、加拉四ノ四ニ曰
 然レモ期既ニ至ルニ及ビテ神其子ヲ遣シ給ヘリ、彼ハ女ヨリ生
 レ且律法ノ下ニ服シタリ、是レ律法ノ下ニアル者ヲ贖ヒ我儕ヲ
 シテ子タルコヲ得シメンガ爲ナリ

第三此子トナル所ノ者ハ即チ本性怒ノ子タレ也(以弗二ノ三、十三、十九)無始永選ヨリ神ノ恩惠ニ由テ選バレ(以弗一ノ五、六)聖靈ニ由テ新ニ生レ(約翰一ノ十二、十三)信仰ニ由テキリストト一致レ(加拉三ノ廿六)且其ノ歸セラレタル義ニ由テ義トセラレタル所ノ者ナリ(羅馬八ノ一、二、十五)

以弗二ノ三、十三、十九ニ曰我儕モ皆曾テ其中ニ居リ肉ノ慾ニ循ヒテ日ヲ送リ肉ト心ノ思フマ、ヲナレ他人ノ如ク本性ニシテ怒ノ子ナリキ云々、然レ也今ハキリストイエスニアレバ曩ニ違カリレ汝等イエスノ血ニ由リテ近ケリ云々、是故ニ汝等今ヨリ賓旅ニ非ス、亦寄寓者ニ非ス、聖徒ト同邦又神ノ家ニ屬スル者ナリ

以弗一ノ五、六ニ曰其意ノマ、ニイエスキリストニ由テ我儕ヲ己ノ子トナサンコヲ愛ヲ以テ預メ定メタリ、其恩ノ榮ヲ贖レメ

ン爲ナリ、即チ愛スル者ニアル我儕ニ賜フ所ノ恩ナリ、約翰一ノ十二、十三ニ曰彼ヲ受ケ其名ヲ信ゼシ者ニハ權ヲ賜ヒテ之ヲ神ノ子トナセリ、カ、ル人ハ血脉ニ由ルニ非ス、情慾ニ由ルニ非ス、人ノ意ニ由ルニ非ス、唯神ニ由テ生レシナリ、加拉三ノ廿六ニ曰汝等ハ皆キリストイエスヲ信スルニ由テ神ノ子トナレリ、羅馬八ノ一、二、十五ニ曰是故ニイエスキリストニアル者ハ罪セラル、コナシ、ソハ活ス靈ノ法イエスキリストニ由テ死ノ法ヨリ我ヲ釋セバナリ

第四斯ク子トナル者ハ凡テ子タルノ權理特權ヲ受ク

一、神之ニ特別ノ愛ヲ施シ給フ、約翰十七ノ廿三ニ曰世ヲシテ汝ノ我ヲ遣ハシ、コ又汝我ヲ愛スル如ク彼等ヲモ愛スルコヲ知ラシメンガ爲ナリ、第一約翰四ノ七ヨリ十一ニ曰愛スル者ヨ、我儕互ニ相愛スベシ、愛ハ神ヨリ出レタナリ、凡ソ愛アル者ハ神ニ

由テ生レ且神ヲ識レルナリ、愛ナキ者ハ神ヲ知ラズ、神ハ即チ愛
 ナレバナリ、神ハ其生給ヘル獨子ヲ世ニ遣シ我儕ヲシテ彼ニ由
 テ生ヲ得シム、是ニ於テ神ノ愛我儕ノ中ニ顯レタリ、我儕神ヲ愛
 スルニ非ズ、神我儕ヲ愛シ我儕ノ罪ノ爲ニ其子ヲ遣シ挽回ノ祭
 物トナセリ、是即チ愛ナリ、愛スル者ヨ、此ノ如ク神我儕ヲ愛シ給
 ヘバ、我等モ亦互ニ相愛スベシ(耶利卅一ノ三、羅馬五ノ八ヨリ十
 一、八ノ卅九)

二、彼等ハ父ナル神ノ名ヲ有ス、雅各二ノ七ニ曰汝等ガ稱ヘラル
 、所ノ美名ヲ云々、默示三ノ十二ニ曰ク我又我神ノ名ヲ之ニ書
 サン

三、彼等ハ憶セザル祈禱ト潔キ行ニ由テ神ニ近クコヲ得、希伯四
 ノ十六ニ曰ク是故ニ我儕恤ヲ受テ機ニ合フ助トナル恩惠ヲ受
 シ爲ニ憚ラズシテ恩惠ノ座ニ來ルベシ、以弗五ノ一ニ曰汝等愛

セラハ、兒女ノ如ク神ニ效フベシ、前彼得一ノ十四、十五ニ曰ク
 汝等孝子ナルニ因テ従前ノ昧キ時ノ慾ニ效フコトナク汝等ヲ
 召シ給フ聖者ニ效ヒ凡ノ行ヲ潔クスヘシ(希伯十ノ十九ヨリ廿
 二、第一約翰五ノ十四參考)

四、彼等ハ父ノ祐助ト保護ヲ受ク、馬太六ノ十一ニ曰我儕ニ今日
 モ日用ノ糧ヲ與ヘ給ヘ、路加十二ノ廿七ヨリ卅二ニ曰ク百合花
 ハ如何ニシ生長カヲ思ヘ、勞ズ紡ガザルナリ、我汝曹ニ告ンソロ
 モンノ榮花ノ極ノ時ダニモ其莊此花ノ一ニ及ザリキ、神ハ今日
 野ニ在リテ明日爐ニ投入ラル、草ヲモ如此ヨツハセ給ヘバ、况
 テ爾曹ヲヤ、嗚呼信仰薄キ者ヨ、爾曹何ヲ食ヒ何ヲ飲ント求ムル
 勿レ、又思ヒ惑フ事ナカレ、凡テ是等ノ者ハ世界ノ邦人ノ求ル者
 也、爾曹ノ父ハ是等ノ物ノ爾曹ニ無テ叶ヌ事ヲ知ル、タゞ神ノ國
 ヲ求メヨ、サラバ是等ノ物ハ爾曹ニ加ヘラルヘシ、小キ群ヨ懼ル

、勿レ、爾等ノ父ハ喜ビテ國ヲ爾曹ニ予ヘ給ハン(詩篇三十七ノ四十、以賽四十九ノ十五、腓立四ノ十九參考)

五、神ヲ父トシテ其教育訓誨ヲ受ク、希伯十二ノ七ヨリ十二日爾曹若シ此懲治ヲ忍バ、神ハ子ノ如ク爾曹ヲ待ヒ給フナリ、誰カ父ノ懲メザル子アラシヤ、衆ノ人ノ受クル懲治モレ爾曹ニ無クバツハ私子ニシテ實子ニ非ズ、マタ我儕ノ肉體ノ父ハ我儕ヲ懲メシ者ナルニ尙之ヲ敬ヘリ、況テ靈魂ノ父ニ服ヒテ生ヲ得ザルベケンヤ、肉體ノ父ハソノ心ニ任セテ暫ク我儕ヲ懲ム、サレド靈魂ノ父ハ我儕ニ益ヲ得シメテ其聖潔ニ與ラセンガ爲懲ムルコトヲ爲ス、凡テ懲治今ハ悦バシカラズ、反テ悲ト思ハル、然ド後コレニ由リテ鍛鍊スル者ニハ義ノ平康ナル果ヲ結バセリ、是故ニ爾曹疲タル手弱リタル膝ヲ健ニセヨ(後提摩三ノ十六、十七參考)

六、彼等ハ安慰ヲ受ク、後哥林一ノ四ニ曰イエスキリストニ在リ

テ爾曹ガ賜リシ神ノ恩寵ニツイテ我恒ニ爾曹ノ爲ニ我神ニ感謝ス(約翰十四ノ十八參考)

七、終ニハ全ク父ノ像ニ肖タル者トナルベシ、第一約翰三ノ二ニ曰愛スル者ヨ、我儕今神ノ子タリ、後イカン未ダ露レス其現レンルニハ必ス神ニ肖シコトヲ知ルツハ我儕其真狀ヲ見ルヘケレハナリ(羅馬八ノ廿九參考)

八、彼等ハ神ノ嗣子ニシテキリストト偕ニ嗣子タル者ナリ、羅馬八ノ十六、十七ニ聖靈自ラ我等ノ靈ト偕ニ我儕ガ神ノ子タルヲ証ス、我儕若シ子タラバ、又後嗣タラン、即チ神ノ後嗣ニシテキリストト偕ニ後嗣タル者ナリ、我儕若シ彼ト偕ニ苦ヲ受ナバ彼ト偕ニ榮ヲモ受ベシ(加拉四ノ七、雅各二ノ五、前彼得一ノ四參考)

九、彼等ハ大ナル尊榮アリ、前彼得二ノ九ニ曰爾曹ハ選レタル族、王ナル祭司、聖民、神ニ屬ル者ナリ、此ハ爾曹ヲシテ召テ幽暗ヨリ

四百十六
出シ其異光ニ入給ヒシ者己ノ徳ヲ顯サシメン爲ニ爾曹ヲ此ノ如キ者トナシ給ヘルナリ
十、彼等ハ靈ナル自由アリ、即チ最早律法ニ束縛セラル、者ニ非ズ、羅馬六ノ十四ニ曰汝等恩ノ下ニ在テ律法ノ下ニ非ズ云々、羅馬七ノ五、六ニ曰ク我儕肉ニ在リシ時ハ律法ニ因ル罪ノ愆ワレラノ肢体ニ働キテ死ノ爲ニ果ヲ結ベリ、然ドモ今ワレラヲ繋ル者ニ於テ死タレバ律法ヨリ釋サレ儀文ノ舊樣ニ由ズ、靈ノ新樣ニ由テ事ヲ、同八ノ二ニ曰ソハ活ス靈ノ法ハイエスキリストニ由テ罪ト死ノ法ヨリ我ヲ釋セバ也(加拉五ノ一參考)然レモ我儕ノ既ニ辨シタル如ク又羅馬七ノ六ニモ云ヘル如ク、是ニ由テ我儕ハ道德上ノ義務ヲ免ル、ニ非ルナリ、我儕ハ神ノ子輩タリト雖モ又其臣民タリ我儕ハ國王ノ家ニ子輩タル者ナリ、而テ我儕ノ父タル國王ハ我儕ガ愛ヲ以テ從フベキ命令ヲ下ス也

十二、彼等ハ靈ナル平和アリ、靈ナル平和トハ即チ獨キニ神ノ敵タリシ者ガキリストニ在テ神ニ和シタルヲ言フナリ、父ナル神ハ贖罪ノ方法ヲ定メ給ヒ而テキリストノ行ニ由テ購ハレタル平和ト復和ム彼ヨリ出ルナリ、哥羅一ノ十九ト二十三曰ソハ父凡ソノ徳ヲ以テ彼ニ滿シ其十字架ノ血ニ由テ平和ヲ爲シ萬物即チ地上ニ在モノ天ニ在ル者ヲシテ彼ニ由テ已ト和ガシル事ハ是其聖旨ニ適フコトナレバナリ、而テ聖靈之ヲ以テ我儕ニ臨ミ我儕ヲ新ニシ且導ク也(約翰一ノ十二ト十三、羅馬八ノ十四參考)既ニ神ニ對シテ此平和アルガ故ニ己ノ心ニ於テ平和アリ又凡ソ人ニ對シテモ平和アル也
然レモ此平和ハ必ズ凡ソ人ハ凡ソ時ニ於テ同様ニ存スルモノニ非ズ、神或ハ其子輩ノ信仰忍耐ヲ練磨セシメンガ爲ニ殊更ニ之ヲ與ヘザルコトアリ、或ハ又眞ノ信者モ罪ヲ犯シ恩惠ヲ

方法ヲ等閑ニシ言行ヲ慎マズ此世ノ物ヲ愛スルガ爲ニ此平和ヲ失フコトアリ、然レモ凡テ眞ノ信徒即チ眞ニ神ノ子タル者ニハ神ハ之ニ悔改ト祈禱ノ精神ヲ與ヘ且ツ更ニ其愛ヲ顯ハシテ靈ナル平和ヲ復新シ給フナリ、此靈ナル平和ハ凡テノ信徒ノ受ルコトヲ得ズキ者ニシテ之ヲ有スルハ其特權、之ヲ求ムルハ其本分ナリ、然レモ眞ノ信徒モ此靈ナル平和ヲ有セザルコトナキニ非ズ、第五此子タルノ證據ハ羅馬八ノ十六ヨリ明言セリ、曰聖靈自ラ我儕ノ靈ト共ニ我儕ガ神ノ子タルヲ證ス、此聖靈ノ證ハ時ニ由テ明白ナルコトアリ、又々明白ナラサルコトアリ、例ヘバ舊約時代ノ人ヨリモキリスト降世以后ノ人ハ更ニ明白ナル證ヲ受ルガ如シ(加拉三ノ廿三ヨリ廿六參考)又或人ハ他人ヨリモ一層明白ナル證ヲ受ルガ如ク又同一人ニシテ或時ハ他ノ時ヨリモ一層明白ニ之ヲ受ルガ如シ、然レモ凡テ信徒タル者ハ神ノ後嗣ナル證

據トシテ之ヲ受ル也、以弗三ノ十三、十四ニ曰爾曹モ眞ノ道即チ爾曹ヲ救フ福音ヲ聞シ後キリストヲ信シ我儕ガ業ヲ嗣クノ質ナク約束ス聖靈ヲ以テ印セラル、神聖靈ヲ以テ印シ給フハ其買受者ヲ救ヒ且己ノ榮ヲ顯サシメ也、

第二十五章

聖メラル、事

此聖メラル、事ト云フ語ハ屢々廣キ意義ニテ用非人或ハ物ヲ通常ノ用ヨリ取リテ神聖ノ用ニ供スルノ義ニ用非タルコトアリ、例ヘバ、神殿(哈巴二ノ十、前哥林三ノ十七)又神殿ノ器具(歷代下五ノ五)祭司長ノ衣服(出埃及卅一ノ十)神ノ預言者(路加一ノ十)其使徒(以弗三ノ五)其人民(復傳廿六ノ十九、前彼得二ノ九)安息日(出埃及廿八ノ八)等ヲ聖ント云ヘリ、神ハ聖ナリト稱ス、何トナレバ聖ハ其本性ナレバナリ、以賽六ノ

之女子ナク神歸シテリ、前提多二ノ十四ヨリキリスト我
 儕ノ爲ニ己ノ身ヲ捨テ給ヘリ、是我儕等凡テテ罪ヨリ贖ヒ出テ
 且己ノ爲ニ己ノ身ヲ潔クシテシテ善事ヲ行ハシメ、爲ナリ(約翰
 十七ノ十九、前哥林一ノ三、三十、以弗五ノ廿六參考)
 三ノ之ヲ聖靈ニ歸シテ、加拉五ノ十六ニ曰靈ニ由テ行(三
 シ、然ラハ肉ノ慾ヲ成ス、コ、五、前哥林六ノ十六、十九、前彼
 三ノ参考)我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等
 四ノ是レ即チ窮テキ恩恵ノ契約ニ含レテ、我儕等ニ與テ、我儕等
 後帖撒二ノ十三ニ曰汝等以爲ニ我儕等ニ神ニ謝スベキナリ、
 神始テ汝等ヲ撰ビ眞理ヲ信之、是レコト、我儕等ニ與テ、我儕等
 三由テ救ヲ得テメ給ヘバ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等
 第三ノ信徒ヲ聖ニシテ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等
 徒方ニ於テ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等

夫信徒ハ其新キ生活ニ於テ罪ヲ脱シ其愛スル所ノ神ノ像ニ效
 不トス、故ニ彼ハ凡ソ罪ヲ發見シ且之ヲ除ク、ホテ務ニ又其
 眞理ヲ言ヒ示サレタル神ノ聖旨ニ從テ生活セント欲スルナリ、
 腓立三ノ十三、十三ニ曰然レ我ガ愛スル所ノ者ヨ、爾曹常ニ服ヘ
 如外畏懼戰慄テ己ガ救ヲ全クセ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等
 我居テ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等
 曹ハ衷ニ働キ、爾曹ヲ以テ志ヲメテ事ヲ行ハシメ、我儕等ニ與テ、我儕等
 二十一ヨリ十三ニ曰夫凡人ニ救ヲ賜フ神ノ恩アラハ、我儕等
 ヲ誠ニ我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等
 シ正ク且虔テ今世ニ存ヘ望ム所ノ福ト大ナル神即チ我儕等ニ與テ、我儕等
 主ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等
 二參考)信徒ニ新キ生活ヲシ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等
 生活ス、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等ニ與テ、我儕等

三懸テ我情ノ罪ヲ自ラ己ガ身ニ任給テ、是我情ヲシテ罪ニ死
 テ義ヲ生シメシ爲ナリ、彼ノ鞭扑レシニ因テ爾曹醫レタリ(羅馬
 六章、哥羅三ノ一ヨリ十參考)其寵恩ヲ感謝シ其約束ヲ信シ且神
 ヲ曰フ神トシ又父トシテ從ヒ崇メ天ノ生活ヲ慕ヒク、孝子ト
 シテ父ヲ孝行ヲ盡セシコトヲ務ムルナリ、馬太六章廿四ニ曰人ハ
 二人ノ主ニ事スル能ハズ、蓋此ヲ惡シ彼ヲ愛シ此ヲ親ミ彼ヲ疎
 遠ベクシテ、爾曹神ト世ニ兼事スル能ハズ(前彼一ノ廿二參
 考)又信徒ハ信仰ヲ以テ働クナリ、所謂恩惠ノ方法即チ聖書所稱
 沈思神以民ト共ニ集セヨ人々爲ニ働クコト等ヲ怠ラズメテ、
 則チ我情ノ救主イエスキリストノ恩惠ヲ知議トシ生長スルコト
 則チ教誡ヲ守ルナリ、神ノ恩惠ニ對シテ、我情ノ救主イエスキ
 リストノ恩惠ヲ知議トシ生長スルコト、第四ノ聖書ヲ讀ム、コトノ目的ハ信徒ヲ以テ天恩ニ入ルニ適當ナ
 共者ヲ示スルコトナリ、神ノ恩惠ニ對シテ、我情ノ救主イエスキ

是以聖經ニ明白ニ教ナル所ナリ、希伯十二ノ十四ニ曰爾曹凡ソ
 天國和睦コトヲナシ自ラ潔カラシムコトヲ務メヨ、猶太廿四、五ニ曰
 我情ノ救主ナル獨一ノ神即チ汝等ヲ礙カセシト守リ、汝等ヲシ
 テ汚穢ク喜テ其榮光ノ前ニ立ツコトヲ得ル也(哥羅三ノ四、腓立三ノ廿
 若シ潔カラズメ主ニ見ルコトヲ得ザル也)哥羅三ノ四、腓立三ノ廿
 一、第ニ約翰三ノ二參考)神ノ恩惠ニ對シテ、我情ノ救主イエスキ
 リストノ恩惠ヲ知議トシ生長スルコト、且是レ聖書ニ於テ、事ト贖罪ノ凡ソ他ノ利益トシ關係ニ由テ顯
 示スル、是レ即チ選擇ノ目的ナリ、以弗二ノ四ニ曰夫神我情ヲシテ
 其前ニ聖ク疵ナシラシムル爲ニ世基ヲ置カザリシ先ヨリ我情
 ヲキレシトシ中ニ選ビ云々、是レ即チ招フ目的ナリ、前帖撒四ノ
 七ニ曰夫神ノ我情ヲ招キ、我情ノ汚穢ヲ洗ハシムルコトヲ行フヲ要
 スルニ非ス、潔カラシムルコトヲ要シ給フナリ、是レ即チ新約ノ目的ナリ、
 希伯八ノ十二日又主云給ヘケル、其日以後我情ヲキル

家ニ立ントスル契約ハ此ナリ、我ハ我方律法ヲ其念ニ置キ又其
 心ニ銘サシ、我彼等ノ神ト也、彼等我民ト爲ルベシ、是レ即チ義ト
 セラレ、其目的ナリ、羅馬五ノ三十一曰是罪ノ死ヲ以テ宰
 レル如ク恩モ我儕ガ主イエスキリストニ頼テ永生ニ至ラセシ
 方爲ニ義ヲ得テ宰レリ、是レ即チキリストノ犠牲ノ結果ナリ、希
 伯九ノ十四曰况テ永遠靈ニヨリ瑕ナクシテ己ヲ神ニ獻シキ
 聖ト聖血ハ爾曹ニ活聖神ヲ奉事センカクメ死ノ行ヲ去ラシ
 メテ其心ヲ潔ムルコトヲ爲ザランヤ、是レ即チ新生ノ結果ナリ、前
 彼一ノ廿二廿三曰爾曹ステニ靈ニ由リ眞理ニ循ヒテ靈魂ヲ
 潔ク僞ナク兄弟ヲ愛スルニ至リタレバ潔心ヲ以テ互ニ相愛ス
 終、爾曹ガ再ビ生ル、公壇ニ由ルニ非ズ、壇ニカザル
 種即チ窮ナク存リ、神ハ活聖道ニ由ルナリ、是レ即チ悔改改心ノ
 結果ナリ、行傳廿六、廿八、廿九曰彼等ノ目ヲ啓キ暗ヲ離レテ

光ニ就キ、其心ノ權ヲ離レテ神ニ歸センメ又彼等ヲシテ我ヲ
 信ズルニ由リテ罪ノ赦ト聖メラレシ者ノ中ニ於テ業ヲ受ルコ
 トヲ得ルセシガ爲ナリ、先ダマシコエルカレシ人々、次ニニダヤ
 ノ全地及ビ異邦人ニ迄恒ニ悔改ニ符フ行ヲ爲シテ罪ヲ悔ベキ
 事ト神ニ歸スベキコトヲ宣傳セタリ、是レ即チ子トナルノ結
 果ナリ、前彼一ノ十四、十五曰爾曹孝子ナルニ因テ従前ノ味時
 々慈ニ效フコトナク爾曹ヲ召給フ聖者ニ效ステルノ行ヲ潔スベ
 シ、是レ即チ終ニ榮メラレコトニ欠クベカラザル資格ナリ、默示廿
 一ノ廿七ニ曰凡テ潔ラザル者ト憎ムベキ行ヲ爲スモノ或ハ謊
 フ云フ者ハ必ズ此ニ入リテ得メ、唯羔羊ノ生命ノ書ニ録サレタル
 者ノ名入ルナリ、其ノ事ハ、
 第五 聖メタル事ノ方法
 其大ナル方法ハ即チ信仰ナリ、蓋信仰ハ根本ニシテ凡ノ新シキ

生活ノ靈魂ヲ勵以之ヨリ發スル也、信徒ハ只信仰ニ由テキリス
 ト一體ニナリ義トセラル、ノミナラス又信仰ニ由テ聖メ
 ル、也、此信仰ハ只或事ハ真ナリトノ信用ニハ非ズ、キリス
 信實ニ已ノ救者、教師、主君、兄弟ト受テ、己ノ身ヲ全クキリス
 トニ委託シテ救ハレ、教ヘラレ、治メラレ、愛セラル、コナリ、信
 仰ニ由テ信徒ハ死テ神ガ其言ニ於テ示シ給ヘル事ヲ信シ其命
 令ヲ守テ其威嚇ヲ恐レヨニスキリストニ於テ己ノ前ニ置カレ
 其約束ト冀望ト由テ安慰ト勢力ト教訓ト聖潔ト受テ
 是即チ汝ノ真ヲ以テ彼等ヲ潔メ給ヘ、汝以言ハ即チ真理ナ
 トトシテ聖メラレ、新舊ノ應ズルモナリ(約翰十七ノ十七)而テ信
 徒ハ聖メラレ、標準ハ即チ其信仰ノ強弱ニ在リ、何トナレ
 彼ガ聖經ニ於テキリストト其信徒トノ間ニ存スル教ヲル所
 凡テ關係ヲ悟リ且其關係ヲ以テキリストヲ受テト受テ

ハ其信仰ノ強弱ニ依レバナリ、行傳十五ノ九ニ曰又信仰ヲ以テ
 其心ヲ潔メ我等ト彼等ノ間ニ分ヲ爲ザリキ、後哥林一ノ廿四ニ
 曰汝等信仰ニ由テ立バナリト、以弗四ノ十三ニ曰我儕ヲテ皆
 同ク神ノ子ヲ信シ之ヲ知リ全キ人即チキリストノ満足ルホド
 ト成マデニ至リ云々、後哥林三ノ十八ニ曰凡テ我儕帕子ナク
 テ鏡ニ照スガ如ク主ノ榮ヲ見榮ニ榮イテ増リテ其オナシ像ニ
 化ル也、是主即チ靈ニ由テナリ
 第六 信徒ハ此世ニ於テ全ク聖潔ナル有様ニ達スルコト得ベ
 キ乎、既ニ辨シタル如ク聖メラル、コトハ進歩スル働ニシテ之ニ
 由テ信徒ハ次第ニ神ノ像ニ於テ完全ナル者又天國ニ入ルニ適
 當ナル者トナルナリ、聖經ニ於テ完全ノ標準トナス者ハ只神ノ
 完全ノミ(馬太五ノ四十八參考)是故ニ信徒ハ罪ナキコト神ノ如ク、
 過失ナキコト神ノ如ク聖ヲ愛スルコト神ノ如クナルニ非レバ未ダ

聖經ノ標準ニ達シタルニ非ズ、全人即チキリストノ満足レルホ
 トニ成ル迄ニ至ラザルナリ(以弗四ノ十三)
 信徒ハ此世ニ於テ全ク聖潔ナル有様ニ達スルコトヲ得ベキ乎ト
 ノ我儕ノ問ハ神ハ此世ニ於テ彼ヲ全ク聖潔ナル者ト爲スコトヲ
 得ルヤト云フニ非ズ、何トナレバ何人モ神ニ此能力アルコトヲ疑
 ハザレバナリ、又我儕ハ此世ニ於テモ既ニ我儕ノ有タル所ノキ
 リストノ義ハ完全ナリヤト問フニモ非ズ、何トナレバ是レ勿論
 ノ事ナレバナリ、又信徒ハ其信仰ト愛心ニ於テ眞實ナリヤト問
 フニモ非ズ、何トナレバ是必然ノ事ナレバナリ、只我儕ノ意ハ我
 儕今ノ世ノ有様ニ於テ全ク聖潔ナル者トナルコトヲ得ルヤ否ヤ
 ト云フニアリ、而テ此問ニ對シテハ或ハ然リト答フルアリ、或ハ
 否ト答フルアリ
 信徒ハ此世ニ於テ全ク聖潔ナル者トナルコトヲ得ト主張スル論者

中ニ於テモ其説ノ性質ニ至テハ不同アリ、但何物カ神ノ完全ト
 ハ異ナルモノヲ以テ完全トナスコトニ於テハ即チ一ナリ、或ハ神
 ノ律法ノ要求ハ衰微シタル人ノ能力ニ適セン爲ニ變化シタリ
 ト説キ或ハ福音ノ要求ハ律法ノ要求ト異ニシテ信徒ハ律法ノ
 要求ヲ満足セシムルコト能ハスト雖モ福音ノ要求ヲ満足セシム
 ルコトヲ得ベシ、故ニ福音ノ標準ハ能ク之ニ達スルコトヲ得ベシト
 説ク者アリ、孰ニシテモ人ハ其要求セラレ、如キ者トナルコトヲ
 得ト説キ且此ノ如クナルコトヲ指テ完全ト稱スルナリ
 蓋此論ハ完全ト云フ語ノ意義ニ由ル所多シ、或ハ聖經ニ於テモ
 眞ノ信仰或ハ練達セル信徒ノ見識ヲ指テ此語ヲ用非タルコトア
 リ、例ヘハ腓立三ノ十五ニ此故ニ我儕ノ中凡テ全キ者ハ此ノ如
 キ意ヲ懷クベシトアルカ如シ、然レモ此使徒パウロノ勸ニ由テ
 モ前ノ三節ニ就テ其意義ヲ尋子ザルコトヲ得ズ、而テ之ヲ尋ルニハ

ウロハ既ニ全キ者ト稱スル所ノ者ニ對シテ尙一層高尚ナル有
 様即チ彼等ノ既ニ達シタル所ヨリモ尙更ニ完全ナル所ニ達ス
 ベキヲ勸ルヲ發見スルナリ、然ラバパウロハ彼等ヲ以テ未
 ダ完全無缺ナル者トセザリシコト明白ナリ、或ハ世人ノ目ヨリ
 見テ非難スベキ所ナキ者ヲ指シテ完全ナル人ト稱シタルコト
 アリ、例ヘハ約百一ノ一、如シ、曰クウヅノ地ニヨブト名グル人
 アリ其爲人完全且正クシテ神ヲ畏レ惡ニ遠ザカル云々、又信徒ハ
 キリストニ在テ完全ナルモノ也、哥羅一ノ十二曰凡テノ事主ヲ
 悦バセンガ爲ソノ意ニ循ヒテ日ヲ送り、凡ノ善事ニ因テ果ヲ結
 ビ且神ヲ知ニ因テ漸ニ徳ヲ増シ云々、是レ他ナシ、キリスト既ニ
 彼等ニ代テ悉ク律法ノ要求ヲ満足セシメ而シテ其贖ニ由テ彼
 等ノ爲ニ永生ト聖潔トヲ求メ得タレバナリ、然レモ此完全ハキ
 リストノ完全ニシテ信徒ハ只之ヲキリストヨリ與ヘラル、耳、

既ニキリストト一體ナルガ故ニキリストノ働ニ預リ己ノ生活
 ニ於テ之ヲ實行スルナリ、彼等ノ衷ニハ聖潔ノ種子アリテ次第
 ニ生長スト雖モ未ダ全ク完全ナル者ニハ非ルナリ、凡テ此等ハ
 神ノ完全ナルガ如ク完全ナリト云フ嚴密ノ意ヲ含マザルモノ
 ナリ、縱令信徒ハ己ノ能クスル所ニ從テ全ク聖潔ナルモノニ爲
 ルヲ得ルトナスモ未ダ以テ福音ノ要求ヲ満足セシムベカラズ、
 何トナレバ福音ハ受造物ノ能クスル所ニ從テ聖潔ナルヲ要
 求セズシテ天父タル造物者ノ聖潔ニ從テ聖潔ナルヲ要求ス
 レバナリ(馬太五ノ四十八)
 信徒ハ此世ニ於テ全ク聖潔ナルヲ能ハズト主張スル者ハ左ノ
 憑據ヲ舉ルナリ
 一 聖經ニ於テ人ハ皆罪アリト明言スル所アリ、傳道書七ノ廿
 ニ曰正義シテ善ヲ行ヒ罪ヲ犯スヲナキ人ハ世ニ在ルヲナシ、雅

各三ノ二ニ曰我儕ハ皆屢過ヲナセル者ナリ、第一約翰一ノ八ニ
 曰若シ罪ナシト言ハ是自ラ欺ケルニテ眞理我儕ニ在ルナシ(列
 王上八ノ四十六、箴言廿ノ九參考)
 二 聖書時代ノ有名ナル信徒ノ經驗ヲ顯ハス所ノ本文アリ、舊
 約ノ例ハ姑ク舍キ(約百四十三ノ五十六、詩篇十九ノ十二、九十ノ
 八、但以九ノ二十參考)單ニ新約ノ例ヲ舉レバ
 使徒ペテロハ既ニ使徒ノ職ヲ爲ス時ニ當テ大ナル過ニ陷リ之
 ガ爲ニ使徒パウロニ譴責セラレタルコアリ、加拉二ノ十一ヨリ
 十三ニ曰ペテロアンテオケニ至リシトキ彼ニ責ベキ所アリシ
 ニ因我當面之ヲ詰メタリ、蓋ヤコブヨリ來ル者ノ未ダ至ラザル
 前ニハペテロ異邦人ト同ニ食シタレ且彼等ガ至ルニ及ビテ割
 禮ヲ受タル者ヲ懼レ退キテ異邦人ト別レバ也、其餘ユダヤ人モ
 彼ト偕ニ僞ノ行ヲナシバルナバモ遂ニ其僞ノ行ニ誘ハレタリ、

使徒パウロノ經驗ハ腓立三ノ十二ヨリ十四ニ明白ニ著シセリ、
 曰我是等ヲ既ニ得タリト言ニ非ズ、亦已ニ全スセラレタリト言
 ニ非ズ、或ハ取事アラントテ我只之ヲ追求ス、キリスト下之ヲ得サ
 セント我ヲ執ヘ給ヘル也、兄弟ヨ我自ラ之ヲ取レリト意ハズ、惟
 此一事ヲ務ム、即チ後ニ在モノヲ忘レ、前ニ在ルモノヲ望ミ、神キ
 リストイエスは由テ上ヘ召テ賜フ所ノ褒美ヲ得ント標準ニ向
 ヒテ進ナリ(羅馬七ノ十四ヨリ廿五、前哥林九ノ二十七參考)凡ソ
 信者ハ誘惑ニ罹ラザルヤウ自ラ警醒スベシトパウロガ教ヘタ
 ルコハ加拉六ノ一二由テ明白ナリ、兄弟ヨ若シ圖ラズモ過ニ陷
 ル者アラハ爾曹ノウチ靈ニ感シタル者柔和ナル心ヲ以テ之ヲ
 規正ベシ、亦自己ヲモ願ミヨ、恐クハ爾誘ハル、コアラント、然レ
 且罪ニ陷ルベキ傾向アルモノハ未ダ完全ナルモノニ非ルナリ、
 使徒ヤコブモイスラエル人中ノ信徒ニ書ヲ贈テ汝等互ニ過ヲ

言著ハシ且病ヲ愈サル、コヲ得ン爲ニ互ニ祈ルベシト云ヘリ、
 然レバ彼等ヲ完全ナルモノト見做ザリシコト明白ナリ、キリスト
 モ亦我儕ノ罪ヲ赦シ給ヘト祈レト弟子等ニ教ヘ給ヘリ
 三 現今信徒ノ經驗モ全ク之ニ符合ス、人ハ愈聖潔ナルニ隨テ
 愈謙遜ニシテ己ノ卑キヲ感シ且己ノ過失ノ罪タルコトヲ感ズル
 ナリ、天下第一ノ善人モ將ニ死ナントスル時ニハ己ノ聖潔ニセ
 ラレタル故ニ非ズ只神ノ慈愛ニ由テ永生ヲ望ムナリ
 四 加之聖經ニキリスト信徒ノ生活ヲ戰爭ニ比シ且次第ニ開
 發スルモノトナセリ、前提六ノ十二ニ曰信仰ノ善戰ヲ戰フベシ、
 前彼得二ノ二ニ曰今生レシ嬰兒ノ乳ヲ慕フ如ク爾等心ヲ養フ
 眞乳ヲ慕フベシ、此ニ由テ爾等長テ救ニ至ラン(以弗二ノ廿一、四
 ノ十五、前提一ノ十八、後提二ノ四、後彼三ノ十八參考)前提二ノ三、
 四ニハ信徒ハ勇卒タルベシトアリ、以弗六ノ十一ヨリ十七ニハ

凡ソ信徒ハ神ノ備ヘタル武具ヲ取ルベシトアリ、然レモ戰爭又
 ハ開發トハ既ニ神ノ全キガ如ク全キ者ノ上ニ付テ用フベキ語
 ニ非ス
 此世ニ於テ全ク聖潔ニナルコトヲ得ベシト思惟スル人ハ左ノ如
 キ聖經ノ本文ヲ以テ證據トス、馬太五ノ四十八ニ曰是故ニ汝等
 ハ天ニ在ス汝等ノ父ノ全キカ如ク全フスヘシト、然レモ是ハ天
 父ノ全キヲ以テ我儕ノ標準トナシ而テ希伯六ノ一ニ説クガ如
 ク之ニ向テ進ムベシトノ意也、信徒ハ此世ニ於テ全キ者ニ爲ル
 コト得ルトノ思想ハ此語ノ出所タルキリストノ説教ノ大旨ニ悖
 ルナリ(アルホルド氏註解馬太五ノ四十八參考)加之此本文ハ神
 ノ完全ヲ以テ標準トナシ更ニ之ヲ増減セザルナリ
 第一約翰三ノ六ト九ニ曰凡ソ彼ニ居ル者ハ罪ヲ犯サズ、凡ソ罪ヲ
 犯ス者ハ未ダ彼ヲ見ズ、未ダ彼ヲ識ラザル也、凡ソ神ニ由テ生ル

、者ハ罪ヲ犯サズ、蓋神ノ種ツノ衷ニ存ニ因、カレ亦罪ヲ犯スコ
 能ハズ、蓋神ニ由テ生ルレバ也ト、此等ノ本文ハ前後ノ本文ヲ參
 照シテ解スベキナリ、前後ノ本文ヲ能ク參照セバ是ハ信徒ノ新
 性ヲ説ケル者ナルコトヲ知ルベシ、既ニ同書ニ於テモ若シ罪ナシ
 ト曰ハマ、是自ラ欺ケルニテ真理我ニアルナシトアリ(第一約翰
 一ノ八)蓋使徒ノ意ハキリストニ居ルト罪ヲ犯ストハ全ク反對
 セルコトナリト云フニアリ、キリスト信徒ノ生活ハ其本質凡ノ罪
 惡ニ反スルモノナリ、若シ罪アラバ是舊性ノ働ナリ、故ニ使徒ヨ
 ハ子ノ教ハ或人ノ之ニ由テ證明セント欲スルカ如ク信徒ハ此
 世ニ於テ全ク聖潔ナルモノトナルコトヲ得トノ主意ニハ非ル也、
 詰ル所キリスト信徒ノ生活ハ次第ニ進歩スルモノナレバ増々
 勵ミテ全クキリストニ肖タルモノトナラシコトヲ務ムベシトノ
 聖經ノ教ハ充分ノ獎勵ト安慰トヲ含メルモノナリ、我儕ハ此世

ニ於テ大ニ聖潔ニ進ムコトヲ得ベシ、然レモ如何程進ムトモ尙先
 ニ進ムベキ所アル事ハ廣大ナル思想ナリ、我儕終ニ天國ニ達シ
 天父ノ眞ノ様ヲ見テ天父ニ肖タル者トナルマデハ尙進ムベキ
 餘地アルナリ

第二十六章 善行

第一 聖經ニ於テハ左ノ三標準ニ適フ所ノ行ヲ以テ善行トス
 一 善行ハ信仰ト愛ヨリ出ザルベカラズ、馬太廿二ノ卅七ヨリ
 四十二曰イエス答ケルハ爾心ヲ盡シ精神ヲ盡シ意ヲ盡シ主ナ
 ル爾ノ神ヲ愛スベシ、是第一ニシテ大ナル誠ナリ、第二モ亦コレ
 ニ同シ、己ノ如ク爾ノ隣ヲ愛スベシ、凡ノ律法ト預言者ハ此二ノ
 誠ニ因レリ、羅馬十三ノ十二曰愛ハ律法ヲ全ウス、羅馬十四ノ廿
 三ニ曰信仰ニ由ラザル者ハ罪ナリ、希伯十一ノ六ニ曰ク信仰ナ

クハ神ヲ悦スコ能ハス
 二 善行ハ神ノ默示ノ言ニ適ハザルベカラズ、馬太十五ノ九ニ
 曰人ノ誠ヲ教トナシテ徒ラニ我ヲ拜スト云ヘリ(復傳十二ノ三
 十二、以賽八ノ廿、哥羅二ノ十六ヨリ廿三、默示廿二ノ十八、十九參
 考)神ノ言ハ信仰ト行狀ノ無二ノ標準ナリ
 三 善行ハ神ノ榮ヲ以テ目的トセザルベカラズ、前哥林十ノ三
 十一ニ曰然バ爾曹食フニモ飲ニモ何事ヲ行フニモ凡テ神ノ榮
 ヲ顯スヤウニ行フベシ
 此ニ由テ之ヲ觀レバ聖經ニ謂ハユル善行ハ新ニ生レタル者ニ
 非レバ爲シガタキコヲ知ルベシ、何トナレバ新ニ生レザル者ハ
 信仰ヲ有セザレハナリ、未ダ新ニ生レザル者ト雖、世人トノ關係
 ニ付テ論ズレハ正當ニシテ感心スベキ舉動モ少カラザルベシ、
 然レモ神トノ關係ニ付テ論ズレバ決シテ善行ト云フベカラズ、

何トナレバ其行ハ信仰ヨリ出ズ、又神ノ榮ヲ以テ目的トセザレ
 バナリ、既ニ辨シタルガ如ク新ニ生レザル者ハ神ノ怒ト祖ノ下
 ニアリ、神ノ正シキ權威ニ對シテ反逆者ノ地位ニ立ツ者ナリ、是
 故ニ神ニ服從セザル中ハ神ノ前ニ於テ秋毫モ善ヲ行フコト能
 ハザルナリ
 所謂新生者ノ善行ハ必ズシモ完全無缺ナリト云フニ非ズ、然レ
 モ尙之ヲ善ト稱スルコトヲ得ベシ、何トナレバ是ハ神ノ命シ給フ
 所ナリ、又信仰ト愛トノ結果ニシテ神ヲ崇メ神ニ從ハントノ志
 ヨリ出レバナリ、言ヲ更テ言ヘバ神ハ之ヲ善トシテ受納シ給フ、
 何トナレバ是其キリストノ爲ニ受容レテ愛シ聖靈ヲ遣シテ潔
 メ給フ所ノ忠信シテ愛スル子輩ノ行ナレバナリ、
 第二 善行ノ必要
 一 信仰ノ善行ハ必要ナリ、何トナレバ人新ニ生レテ神ノ子ト

ナレバ其新性自ラ善行トナリテ顯ハル、ハ必然ノ理ナレバナ
 リ、路加六ノ四十三ト四十四ニ曰夫惡果ヲ結ハ善樹ニ非ズ、又善
 果ヲ結ハ惡樹ニ非ズ、凡ノ樹ハ其果ニ因リテ知ラル、荆棘ヨリ無
 花果ヲ採ズ、亦蒺藜ヨリ葡萄ヲ採ラジ、以弗五ノ八ト九ニ曰爾曹
 モト暗カリシガ今主ニアリテ光レリ、光ノ子輩ノ如ク行ベシ、蓋
 光ノ結ブ所ノ果ハ諸テノ善キ事ト義キ事ト誠其中ニアレバナ
 リ

二 信徒ノ善行ハ必要ナリ、何トナレバ其義トセラル、コト聖
 メラル、コトハ分離スベカラザルコトナレバナリ、羅馬八ノ三十二
 曰義トシタル者ハ之ニ榮ヲ賜ヘリ

三 信徒ノ善行ハ必要ナリ、何トナレバ是神ノ永遠ノ定旨中ニ
 含メバ也、以弗二ノ十二日ニ我儕ハ神ノ造リ給ヘル者ナリ、即チ
 我儕ヲシテ善事ヲ行ハシメシガ爲ニキリストイエスノ中ニ造

リ給ヘリ、此事ハ神我儕ニ行ハセシトテ預シメ備ヘ給ヒシ所ナ
 リ(以弗一ノ四參考)

四 信徒ノ善行ハ必要ナリ、何トナレバ信徒ハキリストト一體
 ナレバナリ、約翰十五ノ五ニ曰我ハ葡萄ノ樹爾曹ハ其枝ナリ、人
 若シ我ニ居リ我亦彼ニ居ラバ多ノ實ヲ結ブベシ、蓋若シ爾曹我
 ヲ離ル、ハ何事ヲモ爲シ能ハザレバ也

五 信徒ノ善行ハ必要ナリ、何トナレバ是聖靈ガ彼等ノ衷ニ働
 ク結果ナレバナリ、加拉五ノ廿二ニ曰靈ノ結ブ所ノ果ハ仁愛、喜
 樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信、溫柔、撻節ナリト

六 神之ヲ命シ給フガ故ニ必要ナリ、前彼得一ノ十五ニ曰爾曹
 ヲ召シ給フ聖者ニ效テ凡ハ行ヲ潔スベシ

七 信徒ガ天國ニ入ルノ預備トシテ必要ナリ、哥羅一ノ九ヨリ
 十二ニ曰是故ニ我儕此事ヲ聞シ日ヨリ爾曹ノ爲ニ斷ズ祈禱ヲ

シ且求ム、願クハ爾曹靈ノ予フル諸ノ智慧ト穎悟トヲ以テ悉ク
 神ノ旨ヲ知リ、凡ノ事主ヲ悦ハセンガ爲ソノ意ニ循ヒテ日ヲ送
 リ凡ノ善事ニ因リテ果ヲ結ビ且神ヲ知ルニ因テ漸ニ徳ヲ増又
 神ノ榮ノ權威ニ從テ賜フ諸ノ能力ヲ得テ強ナリ凡ノ事ヨロコ
 ビテ忍ビカツ耐ヘ又我ヲシテ光ニ在ル聖徒ノ業ノ分ヲ受ルニ
 堪フル者トナラシメ給フ父ノ恩ヲ感謝センコトヲ
 八 人ノ爲神ノ榮ヲ顯ハス爲ニ必要ナリ、馬太五ノ十六ニ曰此
 ノ如ク人々ノ前ニ爾曹ノ光ヲ灑カセ、然レバ人々爾曹ノ善行ヲ
 見テ天ニ在ス爾曹ノ父ヲ榮ムベシ(前哥林十ノ三十一參考)
 善行ハ信徒ガ義トセラル、ノ理由又ハ原因タラザルコトヲ我儕
 ハ主張スルナリ、神ハ人ヲ義トセンガ爲ニ聖キ者トセス、之ヲ聖
 キ者トセンカ爲ニ義トシ給フナリ、路加十七ノ十二曰斯ハ亦爾
 曹命ゼラレシ事ヲ皆行タル時モ我儕ハ無益ノ僕ナスベキ事ヲ

行タルナリト
 然レモ我儕ハ善行ニハ必ズ報アリ、但其報ハ神ガ我儕ニ對シテ
 負フ所ニ非ズシテ只其恩惠ニ由テ之ヲ賜ハルノミ、馬太十ノ四
 十二ニ曰我弟子ナルヲ以テ小キ一人ノ者ニ冷カナル水一杯ニ
 テモ飲スル者ハ誠ニ爾曹ニ告ン必ズ其報賞ヲ失ハシ、同二十五
 ノ三十四ヨリ三十六ニ曰斯テ王其右ニ居ル者ニ云ハン、吾父ニ
 惠ル、者ヨ、來リテ創世ヨリ以來爾曹ノ爲備ラレタル國ヲ嗣、蓋
 爾曹我飢シ時我ニ食セ、渴シトキ我ニ飲セ、旅セシトキ我ヲ宿ラセ、
 裸ナリシ時我ニ衣セ、病シトキ我ヲミマヒ、獄ニ在シトキ我ニ就レバ
 ナリ

第二十七章 聖徒ノ耐忍

第一 聖徒ノ耐忍トハ神ノ永遠ノ目的ト其聖靈ノ常住ノ働ニ

由テ新ニ生レ眞ノ信仰ニ由テキリストト一體ニナリタル者ハ
 決シテ恩惠ノ有様ヨリ墮落スルコト能ハズ必ズ終迄耐忍シテ永
 遠救ヲ受トノ教ナリ
 固ヨリ信徒モ自己ノ力ニ由ル時ハ遂ニ誘惡ニ罹テ亡ルコ
 トアラシ、又信仰ノ働モ一時中絶スルコトアラシ、然レモ信仰ノ有
 様ト習慣トハ尙存スベシ、又信徒ハ大罪ヲ犯シテ神ノ震怒ニ觸
 レ而テ若シ悔改セズンハ遂ニ罰セラレ、ニ至ルコト是レ皆我
 儕ノ許容スル所ナリ、然レモ我儕ハ神ガ撰ビ招キ義トシキリス
 トト一體ナラシメ己ノ子トナシ聖靈ヲ與ヘタル所ノ者ヲシテ
 全ク墮落セシムルコトアリトハ決シテ許容セザルナリ、反テ彼等
 ハ必ズ終迄耐忍シテ救ハル、コトヲ主張スルナリ
 第二 此教ノ証據
 一 是聖經ノ明言スル所ナリ、約翰十ノ廿八、廿九ニ曰我彼等ニ

永生ヲ賜フ、彼等イツマデモ亡ビス、亦是ヲ我手ヨリ奪フ者ナシ、
 我ニ彼等ヲ賜シ我父ハ萬有ヨリモ大ナリ、又我父ノ手ヨリ之ヲ
 奪得ルモノナシ、腓立一ノ六ニ曰ク爾曹ノ心ノ中ニ善工ヲ始シ
 者是ヲ主イエスキリストノ日迄ニ全ウスベシト我深ク信ス、前
 彼得一ノ三ヨリ五ニ曰讚ベキカナ、神我儕ノ主イエスキリスト
 ノ父、彼其大ナル矜恤ヲ以テ我儕ヲ再ビ生我儕ヲシテイエスキ
 リストノ甦リ給ヒシコトニ由リテ活ル望ヲ得サセ亦我儕ノ爲ニ
 天ニ藏アル朽ズ汚レズ衰ヘザル嗣業ヲ得シメ給フナリ、爾曹信
 仰ニ由リテ神ノ能ニ護ラレ己ニ備アル所ノ末時ニ顯レントス
 ル救ヲ得ルナリ(馬太廿四ノ廿四、羅馬十一ノ卅九、後帖三ノ三、後
 提ノ十二)
 二 是レ選擇ノ教ノ必然ノ結果ナリ、選擇ニ於ケル神ノ永遠
 ハ目的ハ變更スベカラザルモノニ其方法目的トモニ含有ス

ルナリ、羅馬八ノ廿八ヨリ三十二日又凡ノ事ハ神ノ旨ニ依テ招レタル神ヲ愛スル者ノ爲メニ悉ク働キテ益ヲナスヲ我儕ハ知レリ、夫神ハ預メ知給フ所ノ者ヲ其子ノ狀ニ效ハセント預メ之ヲ定ム、此ハ其子ヲ多ノ兄弟ノ中ニ嫡子タラセンガ爲ナリ、又預メ定メタル所ノ者ハ之ヲ召キ召キタル者ハ之ヲ義トシ義トシタル者ハ之ニ榮ヲ賜ヘリ(行傳十三ノ四十八、羅馬九ノ十一、後提二ノ十九、希伯六ノ七參考)

三 是レ信徒トキリストノ關係ニ由テ証スベシ、恩惠ノ契約ニ於テ信徒ハキリストニ與ヘラレ其寶血ニ由テ買ハレ而テキリストハ誰モ彼等ヲ其掌中ヨリ奪取ルモノナシト明言スルナリ(約翰十ノ廿八、廿九)キリストハ彼等ノ首ニシテ又保証人ナリ、彼等ハキリストノ肢ナリ、彼等ハキリストノ生存シ給フウチハ亡ルコト能ハズ、羅馬八ノ一二曰是故ニイエスキリストニ在モノ

ハ罪セララル、コナシ、約翰十四ノ十九ニ曰暫セバ世我ヲ見ルコトナシ、然レド爾曹ハ我ヲ見ル、我生レハ爾曹モ生ン

四 彼等ガ其子輩トシテ神ニ對スル關係ニ由テ証スベシ、加拉四ノ六ニ曰且汝等已ニ子タルコトヲ得シガ故ニ神其子ノ靈ヲ爾曹ノ心ニ遣リ「アバ」父ト呼バシム、羅馬八ノ十七ニ曰我儕若シ子タラバ又後嗣タラン、即チ神ノ後嗣ニシテキリストト偕ニ後嗣タル者ナリ、我儕若シ彼ト偕ニ苦ヲ受ケナバ彼ト偕ニ榮ヲモ受ベシ

五 聖靈ノ働ニ由テ証スベシ、聖靈ハ信徒ニ新ク且聖キ生命ヲ與ヘ其心ニ寓リ彼等ヲ潔メ彼等ヲシテ天國ニ入ルニ適當ナル者トナシ又彼等ノ神ノ子タルコトヲ証スルナリ、聖靈ハ即チ神ガ己ノ人民ニ對シテ其約束ヲ必ズ成就シ給フ保証ナリ、後哥林一ノ廿一、廿二ニ曰我儕ヲ爾曹ト偕ニキリストニ堅クシ且我儕

ニ膏ヲ沃シ者ハ神ナリ、彼又我儕ニ印シ且質トシテ靈ヲ我儕ノ
心ニ賜ヘリ、以弗一ノ十三、十四ニ曰爾曹モ眞ノ道即チ爾曹ヲ救
フ福音ヲ聞シ後キリストヲ信ジ我儕ガ業ヲ嗣ノ質ナル約束ノ
聖靈ヲ以テ印セラル、神聖靈ヲ以テ印シ給フハ其買受シ者ヲ救
ヒ且己ノ榮ヲ顯サンガ爲ナリ(約翰十四ノ十六、後哥林五ノ五參
考)

六 羅馬書第八章ノパウロノ議論ハ徹頭徹尾信徒ノ救ノ確實
ナルコトヲ示シタルモノナリ

第三 反對說

此教ニ反對ヲ唱フル者ハ首トシテロマ教徒トアルニアン派
ノ人ナリ
一 其說ニ曰此教ハ人ノ自由ニ反スト、我儕之ニ答テ曰神ハ其
人民ヲ遇スル時ニ當リ彼等ノ心ヲ變ズルガ故ニ彼等ガ聖潔ヲ

求ムル事ニ於テハ自由ニ彼等ノ意志ヲ働カシムルナリ、神ハ彼
等ヲ己ノ子輩トナシ彼等ヲ聖潔ニシ彼等若シ罪ヲ犯セバ之ヲ
懲シメテ再ビ悔改從順愛敬ヲ致サシム、斯ノ如クシテ終マテ彼
等ヲ忍耐セシムルガ故ニ更ニ其自由ヲ害セザルナリ(神ノ定旨
四十八丁ヲ見ヨ)

二 又曰此教ハ人ヲ怠惰罪惡ニ導クノ恐アリト、答テ曰第一之
ヲ實驗ニ徵スルニ然ラズ、此教ヲ主張スル者ノ謹慎敬虔ナルコ
トハ之ヲ主張セザル者ト毫モ異ナルコトナシ、却テ信徒カ終ニ勝ヲ
獲ルノ確實ハ彼ヲシテ常ニ耐忍活潑ナラシムルナリ、第一約翰
五ノ四ニ曰凡ソ神ニ由テ生ル、者ハ世ニ勝、我儕ヲシテ世ニ勝
シムル者ハ我儕ガ信ナリト、蓋シ此反對說ハ此教ヲ誤解スルヨ
リ起レル者ナリ、此教ハ一。次。信。ズ。ル。者。ハ。其。后。ノ。行。狀。如。何。ニ。拘。ハ
ラズ必ズ救ハルト云フニ非ズ、但眞。ニ。信。ズ。ル。者。ハ。必ズ終迄忍耐

シテ聖潔ノ道ヲ守ルト云フニ在リ、夫人ハ只其結果ニ由テ其信
 仰ノ眞偽ヲ知ルコトヲ得ベシ、然而テ人若シ罪ヲ犯シテ之ヲ悔改
 メ其天父ニ歸ラズバ之ニ由テ其信仰ノ眞實ナラザルコトヲ知ル
 ベシ、彼若シ眞實ニ神ノ子ニシテ罪ヲ犯シタランニハ必ズ父ニ
 歸リテ其赦ヲ祈ルベシ、且此過失ニ由テ尙誘惑ノ恐ルベキコト
 ヲ學ブベシ、所謂忍耐ハ聖潔ノ忍耐ニシテ信徒ハ即チ恩惠ノ有
 様ニ居ル證據ナリ、後提二ノ十九ニ曰然レモ神ノ置給ヒシ基礎
 タテリ、其上ニ印アリ誌シテ云フ、主己ニ屬ル者ヲ知ルト、又云フ
 凡テ主ノ名ヲ頌ブ者ハ不義ヲ離ルベシト
 三 又曰忍耐スベキ命令ト墮落ヲ慎ムベキ警誡ハ載セテ聖經
 ニアリ、是即チ新ニ生レタル者モ或ハ墮落スルコトアル證據ニ非
 ズヤト
 答テ曰我儕ハ孰レカ眞ノ新ニ生レタル者ニシテ孰レカ其人ニ

非ルヤヲ知ルコト能ハザルコトアリ、反テ生者ノ名アリテ其實死シ
 タル者アルコトヲ知ルナリ(黙示三ノ一)又神ノ子輩ノ如ク見ヘテ
 終ニ墮落シタルモノアルコトヲ知ル、例ヘバユダノ如シ、然レモ聖
 經中ニ眞ノ新ニ生レタル者が全ク墮落スルコトヲ示シタル所ア
 ラザルナリ、又凡ソ信徒タル者ハ神ガ彼等ノ生長ノ爲ニ設ケタ
 ル所ノ方法ヲ守ルベキ者ニシテ其方法中ニハ神ノ命令警戒ヲ
 モ含メルコトヲ記憶スベキナリ、而テ我儕若シ神ニ選バレ招カレ
 タラバ救ハル、コ必然ナリト雖モ我儕ハ果シテ選バレ招カレ
 タルコトヲ知ラン、爲ニ常ニ自ラ警醒勤勉スルノ必要アルナリ
 論者ガ此說ノ憑據トシテ引用スル聖經ノ本文ハ大抵左ノ如シ
 (一) 馬太十三ノ廿、廿一ニ曰己ニ根ナケレバ暫時ノミ、教ノ爲ニ
 思難アルヒハ追ラル、事ノ起ル時ハ忽チ道ニ礙ク者ナリ、又棘
 ノ中ニ播レタル種ハ是ヲ聽ドモ此世ノ思慮ト貨財ノ惑トニ教

ヲ蔽レテ實ラザル者ナリ
 此本文ニヨレバ或者ハ神ノ真理ニ於テ大ニ愛ズヘキ所アルヲ
 悟リ、暫時之ヲ受容ルト雖也遂ニ其要求スル所ノ變化ニ堪ヘズ
 或ハ試練ニ堪ヘズシテ之ヲ放棄スルナリ、然レ也此ノ如キ者ハ
 未ダ眞實ニキリストニ從ヒシ者ニ非ス
 (二) 希伯六ノ四ヨリ六ニ曰ク此尊貴ハアロンノ如ク神ノ召ヲ
 受タル者ニ非レバ自ラ之ヲ取ル者ナシ、此ノ如クキリストモ自
 ラ尊ビテ祭司ノ長トハ爲ラザリキ、爾ハ我子ナリ、我今日爾ヲ生
 メリト言シ者彼ヲ尊ビテ然ナセリ、又別ノ篇ニ爾ハ窮テクメル
 キゼテクノ班ノ祭司タリト云ヒ給ヘルカ如シ、後彼二ノ廿、廿一
 ニ曰爾曹モシ過ヲナシ捷レテ之ヲ忍フトモ何ノ嘉ベキ事ナラ
 シヤ、サレド若シ善ヲナシ苦メラレテ此ヲ忍ハ、神ニ嘉稱ヲ得
 ベシ、爾曹ノ召サレタルハ之ガ爲ナリ、蓋キリスト爾曹ノ爲ニ苦

ヲ受、爾曹ヲシテ己ノ跡ニ隨ハシメントテ式ヲ爾曹ニ遺シ給ヘ
 バナリ

此等ノ本文ハ眞ノ新ニ生レタル者ニシテ若シ耐忍セザル時ハ
 實ニ恐ルベキコトヲ教フト雖也此ノ如キ者ハ必ズ墮落ストモ墮
 落シ得ベシトモ教ヘザルナリ、是此二書ノ他ノ本文ニ由テ推知
 スルコトヲ得ベシ、例ヘバ希伯六ノ九ヨリ十二、六ノ十七、十八ノ如
 シ、曰ク愛スル者ヨ、我儕如此イヘド爾曹ガ此ニ愈レルコト即チ救
 ニ近キコトヲ深ク信ゼリ、神ハ爾曹ガ先キニ聖徒ニ事ヘ今モ尙之
 ニ事ルコトノ功勞ト聖名ノ爲ニ顯シ、其ヲ忘ル、不義ナル者ニ
 非ズ、爾曹各終ニ至ル迄疑ヲ懷カザル望ヲ保シカ爲ニ以前ト同
 シ懇懃ヲ表シ怠ラズシテガノ信仰ト忍耐ヲ以テ約束ヲ嗣ル者
 ニ働ンコトヲ我儕欲ヘリ、然レバ神ハ約束ヲ嗣者ニ其旨ノ易ラザ
 ルコトヲ愈表サントシテ約束ノ上ニ又誓ヲ立給ヘリ、神ノ詭ルコ

能ザル此二件ノ易ナキコハ前ニ立トコロノ望ヲ執ラントテ怒ヲ避タル我儕ヲ慰メンガ爲ナリ、又後彼一ノ十、十一ノ如シ、日は故ニ兄弟ヨ、勸メテ爾曹ノ召レシ事ト選レシ事トヲ堅固セヨ、若シ前ニ告タル事トモヲ行ハマ、爾曹イツマデモ躓クコナカラシ、此ノ如クバ神爾曹ニ我儕ノ主ナルイエスキリストノ永遠國ニ入ノ恩ヲ豊ニ予ヘ給フベシ

(三) 希伯十ノ廿六ヨリ廿九ニ曰若我儕眞理ヲ曉得セラレシ後尙放縱ニ罪ヲ犯サバ罪ヲ贖フ犠牲マタ有コアク惟恐テ審判ヲ待コト仇敵ヲ焚滅サントスル烈火ノミ遺ルナリ、モイセノ律法ヲ廢ル者若シ二三ノ人ノ證アラバ恤マル、コナクシテ死スベシ、况テ神ノ子ヲ蹂躪自ラ潔ラレシ契約ノ血ヲ尋常ノモノトナシ又恩ヲ施ス靈ヲ侮ル者ノ受ベキ其罰ノ重ク幾何ト意フヤ、是又前段ノ本文ト同様ニ解スルコヲ得ベシ、或ハ特別ニキリストヲ

知ルノ好機會ニ遭遇シタル者ガキリストヲ棄ルノ恐シキコヲ示スノ一層明白ナル一例トスベシ、世上ニハ聖經ヲ有シキリスト信徒ト交際シ展キリスト教ノ講義ヲ聞キ或ハ信徒ノ子女ニシテ尙自ラキリストヲ受ザル輩アリ、此ノ如キ輩ガ神ノ審判ヲ受ルハ實ニ恐ルベキコナリ(路加十二ノ四十七、四十八參考)凡テ此等ノ本文ハ聖經ノ他ノ部分ニ於テ明白ニ教ヘラル、所ノ此教理ニ符合スルヤウ解スベキナリ、蓋此等ハ新生者ヲシテ墮落スルコナカラシメンガ爲ニ彼等ニ警戒ヲ加ヘタル語ニ非ズンバ則チ信徒ヲシテ一層勸勉警醒セシメンガ爲ノ語ナリ、然ラザレハキリスト教ノ貴重ナルコヲ識リナガラ尙キリストニ從ハザル者ニ向ヒテ之ヲ等閑ニ付スルノ恐シキ結果ヲ示セルモノナリ

(四) 論者又曰信徒ニシテ正シク墮落スル者ノ實例アルヲ如何

ニセン、例ヘハ聖經ニハダビデベテロユダアナニヤ等ノ事アリ、
 又今日ニテモキリストヲ信ズルコトヲ眞ニ言著ハシ教會ニ加入
 シタル後ニ全ク信仰ヲ失フモノアリ
 答テ曰凡テ此等ノ者ヲ分テ二種トナスベシ
 其一 例ヘバ始ヨリ神ノ子輩タルノ外貌アリテ其實ナキ者、例
 ヘバユダアナニヤ等ノ如シ(第一約翰二ノ十九參考)
 其二 實ニ神ノ子輩ニシテ暫時試惑ニ罹レテ遂ニ神ノ恩恵ニ
 ヨリ回復シタル者又ハ回復スベキ者、例ヘバダビデベテロ等ノ
 如シ
 苟モ眞ノ信徒タル者ハ故意ニキリストニ背クコト能ハズ、只惡魔
 ノ誘惑ニ罹リ信仰弱キガ故ニ罪ニ陷ルコトアリ(馬太廿四ノ廿四、
 路加廿二ノ三十一參考)然レテ縱令誘惑ニ罹リ父ニ背クコト子ハ
 乃チ子ナリ、又其罪ヲ悔ヒ父ノ赦ヲ乞フテ眞ニ子タルノ心ヲ顯

ハスナリ

救拯學大尾

明治二十一年六月二十五日印刷
明治二十一年六月二十八日出版

編輯
行譯
者兼

福島縣士族

井深

梶之助

東京麻布區
笹笥町三番地寄留

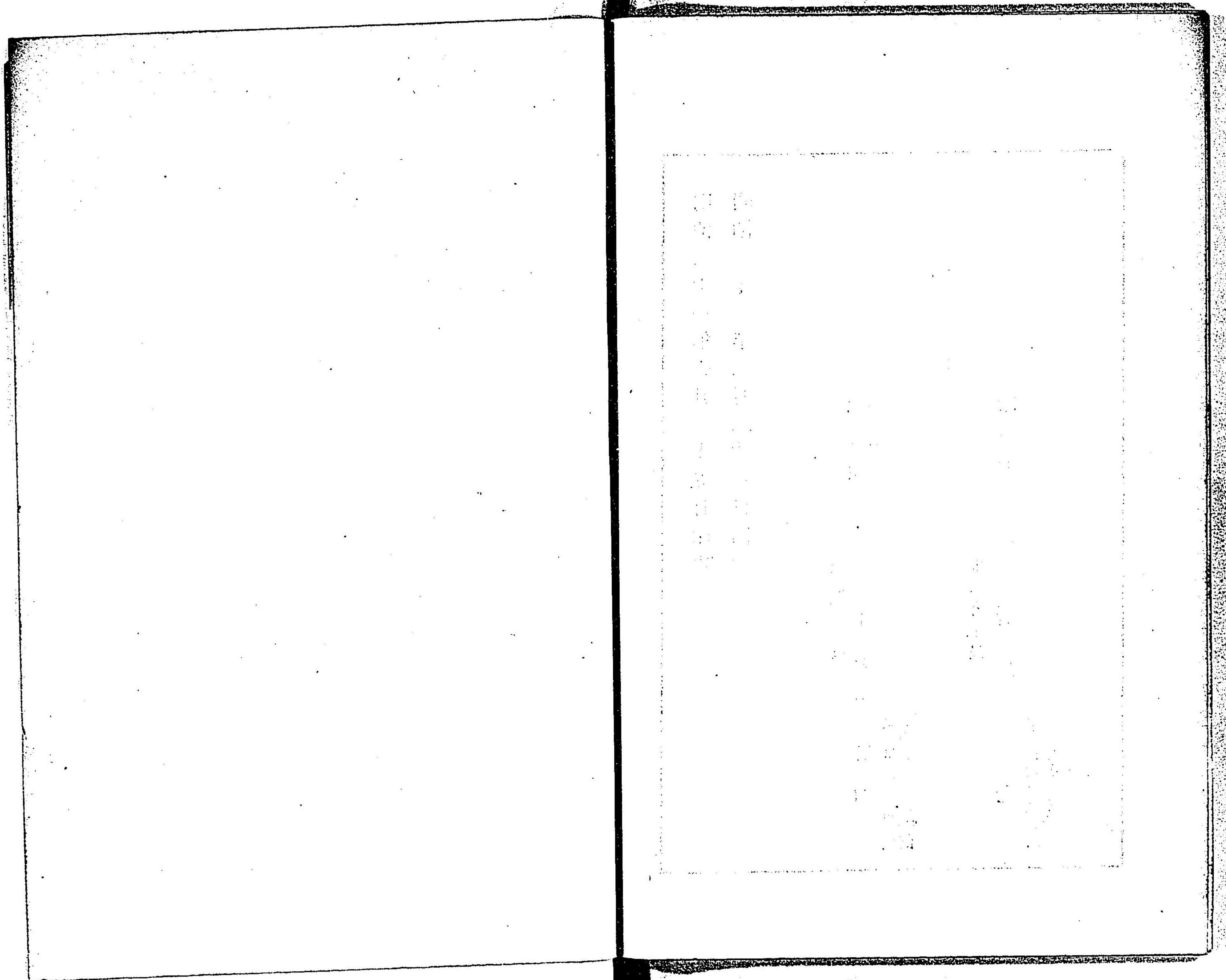
東京府平民

廣瀨

安七

東京日本橋區兜町
壹番地製紙分社

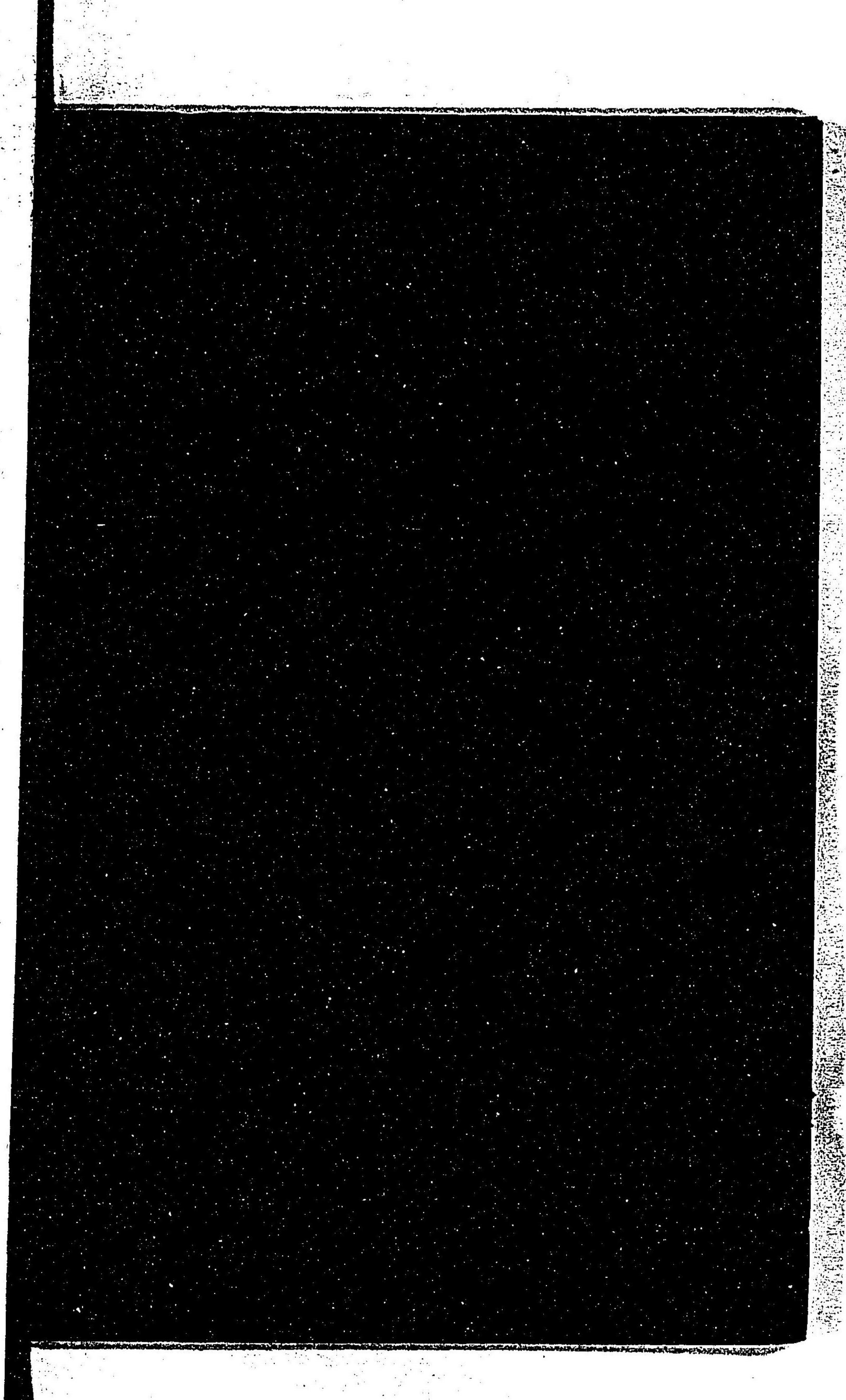
印刷者





24
74

Blank page with faint vertical lines on the right side.



74

020372-000-8

24-74

救拯学

アメルマンノ著

M21

ABI-0179



